

自然の恵みに支えられた暮らしを守り、創出する

生態系 ネットワークの 形成に向けて

～あいち生態系ネットワーク協議会の取組～



生態系ネットワークの形成 ～生態系ネットワーク協議会～

(1) 「あいち生物多様性戦略2030」と「あいち方式2030」

2010年の秋に開催されたCOP10において、生物多様性の保全と持続可能な利用を進めていくための世界目標として「愛知目標」が採択されました。

「愛知目標」の達成に向けて、本県では「あいち生物多様性戦略2020」（2013年3月策定）に基づき、多様な主体の連携による生物多様性の保全に取り組んできました。

その取組の成果と課題を踏まえて、2021年2月に策定した「あいち生物多様性戦略2030」では、「人と自然が共生するあいち」を基本目標として掲げ、「生態系ネットワークの形成」を進めるための取組である「あいち方式2030」を重点的に推進していくこととしております。

(2) 「生態系ネットワーク」とは

野生生物の多くは、ひとつのタイプの自然で一生を完結しているわけではなく、複数の異なるタイプの自然を利用しています。例えば、ニホンアカガエルは、卵、オタマジャクシの時は田んぼや湿地、子ガエルは草地、親ガエルは林で冬眠といった生活をしています。

また、遺伝的な多様性を保つため、移動できる範囲内に同じタイプの自然が複数存在することも必要です。さらに、開発などで動植物の生育・生息に適した自然がなくなった場合、移動できる範囲に同じタイプの自然があれば、その地域から絶滅する危険を減らすことができます。

このように、生物多様性を守っていくためには、同じタイプや異なるタイプの自然がネットワークされていることが必要であり、これを「生態系ネットワーク」といいます。

経済活動が活発な本県では、市街化が進んだことにより生物が住む場所が減少してきました。そこで本県は、県民が暮らし、働き、学ぶ、身近な場所に自然を取り戻し、持続可能な形で将来の世代に伝えていくために、土地利用の転換や開発などにより分断され、孤立した緑地や水辺などの自然を保全、再生してつなげ、生態系を回復する「生態系ネットワークの形成」に県内全域で取り組んでいくこととしました。



(3) 「生態系ネットワーク協議会」とは

本県では、自然や社会の特徴に応じて県域を9地域に区分し、県内における「生態系ネットワークの形成」を目指して、地域ごとに多様な主体で構成された生態系ネットワーク協議会（以下、「協議会」という。）の設立を進めてきました。

各地域で設立された協議会は、地域特性を踏まえて独自性のある取組を展開しています。そのため、取組方針や取組方法、構成団体に至るまで、協議会ごとに様々です。

協議会の取組方針を特徴づけるものが、取組テーマであり、地域の独自性を反映させた内容となっています。構成団体は、学識経験者、企業、NPO、行政等ですが、そのバランスは協議会ごとに異なっています。次ページ以降で、設立順に県内9協議会の現在までの取組、今後の展望などを紹介します。



知多半島

生態系ネットワーク協議会

事例を積みかさね
自然をつなぎ
生きものとともに暮らす

Chita Peninsula

半田市、常滑市、東海市、大府市、
知多市、阿久比町、東浦町、
南知多町、美浜町、武豊町

知多半島生態系ネットワーク協議会は、
2011年(平成23年)1月に設立されました。
40団体(2021年(令和3年)9月現在)が、
生物多様性の保全や創出などのモデル事業
のアイデアを実行し、生物多様性の活動の
ヒントとなる事例を発信しています。

協議会テーマ
ごんぎつねと住める
知多半島を創ろう



キツネ



カブトムシ



ギンヤンマ



地域の生態系

緑地、里山、湿地、
キツネ、ギンヤンマ、
カブトムシ



学生と企業とが連携した外来種駆除



企業緑地体験イベント
[LOVE! GREEN DAY]



東浦自然環境学習の森



フリーペーパー「エコレコあいち」



アニマルバス(榑豊田自動織機東浦工場)



臨海部の緑地帯

<おもな活動>

- ・臨海工業地帯の緑地整備
- ・東浦自然環境学習の森での保全活動
- ・板山高根・菅町田湿地における保全活動
- ・半島南部におけるモウソウチク対策

多様な環境を背景に、
様々な活動が展開

知多半島は、北部地域に住宅街や工業地帯、中部・南部地域に田園地帯や山林など、多様な環境が広がるエリアです。各地で湿地保全や外来種対策、里山保全、生態系ネットワーク形成、象徴種であるキツネの研究、地域で問題視されている松枯れ対策の研究、自然観察・普及啓発など、様々な団体が生態系保全活動に取り組んでいます。

また、協議会の活動をきっかけとし、これらの団体同士の交流や活動連携もさかに行われるなど、生態系ネットワーク形成に積極的に取り組んでいることも特徴です。

若者や行政、企業、NPOなど
多団体連携がさかんに

北部地域に広がる工業地帯の緩衝緑地を生物多様性豊かな環境に変えるため、地主である複数の企業や地域の学生、NPO、有識者が連携する「命をつなぐPROJECT」が中心となり、様々な活動に取り組んでいます。緑地の整備活動だけでなく、イベント開催やフリーペーパー発行を通じ、地域住民へ向けた生物多様性啓発にも取り組んでいます。この活動により、企業やNPO、若者の連携が促進され、企業と近隣NPOが協力して活動する機運が生まれています。

多団体連携により
具体的な成果も

2018年(平成30年)には、NPO法人東浦里山支援隊の呼びかけに応じ、株式会社豊田自動織機の敷地内にアニマルバスが作られ、実際に利用するキツネの姿が確認されています。

美浜町ではモウソウチクの駆除活動に取り組む美浜町竹林整備事業化協議会によるモウソウチクの伐採、竹を利用したおもちゃ作り、里山の恵みを味わう収穫祭などの活動に地域の学生が連携しています。そのほか、自然観察イベントへの若者参加やNPO主催のフォーラムへの出席などもさかんで、大人たちによる活動の次世代への継承が期待されています。

【構成団体一覧】40団体

<大学等 3>

日本福祉大学、大同大学、中部大学
<企業等 16>

(株)HI、愛知製鋼(株)、出光興産(株)愛知製油所、JXTGエネルギー(株)知多製造所、新日鐵住金(株)名古屋製鐵所、大同特殊鋼(株)知多工場、知多エル・エヌ・ジー(株)、中部電力(株)知多火力発電所、東邦ガス(株)知多製造部、(株)豊田自動織機、名古屋鉄道(株)、(株)Mizkan Holdings本社、(株)鉄インプレス南知多ピーチランド、(株)LIXIL知多事業所、東レ(株)東海工場、(株)ZIZAI

<NPO等 10>

(NPO)愛知生物調査会、板山高根湿地環境ボランティア観察保存会、菅町田湿地を守る会、国際ロータリー第2760地区社会奉仕委員会、知多自然観察会、(NPO)日本エコロジスト支援協会、東浦里山支援隊、美浜町竹林整備事業化協議会、(NPO)愛知環境カウンセラー協会、(NPO)びすたーり

<行政機関 11>

半田市、常滑市、東海市、大府市、知多市、阿久比町、東浦町、南知多町、美浜町、武豊町、愛知県

東部丘陵

生態系ネットワーク協議会

生態系をつなぐために
みずから考え
行動する人を育てる

Eastern Hills

名古屋市、瀬戸市、春日井市、豊田市、尾張旭市、豊明市、日進市、みよし市、長久手市、東郷町

東部丘陵生態系ネットワーク協議会は、2011年(平成23年)3月に設立されました。大学が中心となって、住民や事業者、行政と協力しながら、ハード的な(実際に生態系をつないでいくための)取組とソフト的な(所属団体が知恵を出し合う)取組の両面からモデル事業などを進めてきました。

協議会テーマ
23大学が先導する、ギフチョウやトンボの舞うまちづくり



八竜湿地



大日本印刷株式会社名古屋事業所内のビオトープ



二村山緑地でのカレッジ



東谷山でのカレッジ

東部丘陵地域の自然環境

名古屋市の東部から春日井市、瀬戸市、豊田市にかけて丘陵地が広がっており、この一帯を「東部丘陵」と呼んでいます。この地域はかつて大部分がはげ山で、生物多様性が低下し、土砂崩れなど災害が発生することもありましたが、社会情勢の変化もあって、現在は樹林地が広がっています。また、丘陵地は河川の上流部を形成しているだけでなく、湧水湿地やため池が点在し、湧水湿地には東海丘陵要素植物群とよばれる、東海地方の湧水湿地に特徴的な植物も生育しています。一方で東部丘陵地域は都市部に近いことから、開発が進んで貴重な生きものが減少したり、生育・生息域が分断されたり、外来種が増加したりするなどの問題も生じています。

都市に浮かぶ島をつなげて、生きものを守る

東部丘陵地域では、都市化が進んだ区域の中にも、孤島のように自然環境が残っているケースもあります。しかし、他の場所との生きものの往来が困難になって孤立してしまっているため、生態系としては危うい状態と言えます。そこでこの地域には大学が多く立地することから、大学のキャンパス内の生物多様性を向上させて、孤立した生態系をつなぐ存在にしようというところからこの協議会です。当初は大学でのビオトープの設置や整備からスタートしましたが、近年は協議会に加入した企業の敷地内でもビオトープの設置が行われています。

あいち自然再生カレッジを通じた普及啓発活動

当協議会では、構成メンバーである大学・企業・自治体などが相互に協力しながら、一般市民を対象にした普及啓発にも取り組んでいます。それが「あいち自然再生カレッジ」で、協議会の目標の一つである「生態系をつなぐために、みずから考え、行動する人を育てる」を具現化させるための活動です。地域住民、NPO、学生、行政の担当者など、さまざまな方々が参加しており、リピーターの方も多くおられます。また近年は、将来を担う若い世代が生物多様性に関心を持ってもらえるよう、親子で参加しやすい講座も用意しています。

【構成団体一覧】43団体

<大学等 23>
愛知医科大学、愛知学院大学、愛知学泉大学、愛知県立芸術大学、愛知県立大学、愛知工業大学、愛知淑徳大学、愛知大学、金城学院大学、椋山女学院大学、中京大学、中部大学、東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林生態水文学研究所、名古屋外国語大学、名古屋学院大学、名古屋学芸大学・名古屋学芸大学短期大学部、名古屋工業大学、名古屋産業大学、名古屋商科大学、名古屋市立大学、名古屋大学、南山大学、名城大学
<企業等 6>
三五コーポレーション(株)、生活協同組合コープあいち、東邦ガス(株)、大日本印刷(株)、焼畑商店、側島製罐(株)
<NPO等 3>
国際ロータリー第2760地区社会奉仕委員会、(NPO)愛知環境カウンセラー協会、(NPO)海上の森の会
<行政機関 11>
名古屋市、瀬戸市、春日井市、豊田市、尾張旭市、豊明市、日進市、みよし市、長久手市、東郷町、愛知県

地域の生態系

シデコブシ、ハッチョウトンボ、ギフチョウ、シラタマホシクサ



東京大学附属演習林でのカレッジ



矢並湿地でのカレッジ

<おもな活動>

- ・あいち自然再生カレッジの実施
- ・大学や企業の敷地内ビオトープの整備
- ・里山や湧水湿地の保全

共生を目指して
豊かな自然の
最先端のモノづくりと

West Mikawa

岡崎市、刈谷市、豊田市、安城市、
知立市、みよし市、幸田町

西三河生態系ネットワーク協議会は、2011年(平成23年)3月24日に設立され、33団体(2021年(令和3年)12月現在)が活動しています。ものづくり県・愛知をけん引する多くの工場・事業所が立地するエリアですが、事業所敷地内の緑地等を生きものが生息しやすい環境に改善するなど、自然との共生を目指して、様々な取り組みを行っています。

協議会テーマ
最先端のものづくりと
最先端のエコロジーが
好循環する暮らしを目指して



ソニーの森「フクロウの住む森づくり」

モノづくりの中心地における
環境面への取組

西三河は、里山や田園といった多様性に富んだ環境を持ちつつ、国内有数の産業集積地でもあります。西三河生態系ネットワーク協議会では、工場敷地内の既存の緑地を改善して生きものが生息しやすい環境をつくり、新たに生きものの生息に適した森や草地水辺を創出したりする企業の取り組みを支援するとともにその活動を周辺地域に広げる取り組みを行っています。

長きに渡って世界をリードしてきた先進技術のものづくりへの活用、環境負荷の低減に向けた取組を通じて、今後ものづくり産業の中心地として様々な環境面への取組を進めていきます。



地域在来種の苗木の里親募集

企業、地域住民、行政が一体となって
取り組む

同協議会では、これまで「ソニーの森」で採れる在来種樹木の種子からコープあいち組合員や地域住民が苗木を育て、公園等に移植する活動や、乙川流域にある天使の森(岡崎市公有林)において、現状未利用人工林から在来種主体の自然林に戻すため、植樹用地の伐採整備や植樹を行う等の活動を行っています。また、外来種の駆除活動(刈谷市、岡崎市)、ピオトープ整備(刈谷市、豊田市)等で街中に生きものを呼び込み、市街地の自然の質を高める活動や、高速道路と一体的に自然を保全・再生し、生態系ネットワーク間のつながりを強化する活動など、企業、地域住民、行政などが一体となって、環境保全活動に取り組んでいます。



シラタマホシクサ



青空教室(「天使の森」山頂にて「山と海」の繋がりを学ぶ)

地球的視野に立ち地域に合わせた
生態系維持を

経済発展と環境保全の両立は、ものづくりの盛んなこの地域にとっても大きな課題です。持続的な生態系の保全と、環境的な質の高さを維持しつつ、その上で地域のモノづくり産業がさらに発展して行くような地域社会の構築を目指していきたくと考えます。

企業の環境取り組みは、これまでCSR(企業が取り組む社会貢献活動)からCSV(企業が取り組む社会と共有の価値創造活動)への転換が迫られています。すなわち、企業活動のあらゆる場面で環境負荷軽減はもちろん、本業を通していかに環境に貢献していくかが重要となっています。さらに地球的視野に立った環境取り組みと、地域に合わせた生態系維持の両立が求められていると考えます。

地域の生態系

フクロウ、ツマグロキチョウ、
ハッチョウトンボ、
シラタマホシクサ、コナラ、
アベマキ、スギ、ヒノキ、
モウソウチク



市民による植樹活動



いきもの調査の様子



外来種駆除 環境学習会

【構成団体一覧】33団体

<大学等 6>

中部大学、名古屋大学、愛知学泉大学、愛知工業大学、愛知教育大学、人間環境大学

<企業等 7>

トヨタ自動車㈱、中日本高速道路㈱、ソニーグループ、アルマニューファクチャリング&オペレーションズ㈱(幸田サイト)、生活協同組合コープあいち、㈱三五、トヨタ車体㈱、愛三工業㈱

<NPO等 10>

(NPO)アースワーカーエナジー、(NPO)みよしの自然環境を守る会、ピオトープ・ネットワーク中部、(一社)いきもの森再生機構、国際ロータリー第2760地区、(NPO)愛知生物調査会、(公財)日本野鳥の会、(NPO)日本ピオトープ協会、琴平ふくろう谷の会、S&Sクリエイト

<農林漁業団体 2>

あいち豊田農業協同組合、豊田森林組合

<行政機関 8>

岡崎市、刈谷市、豊田市、安城市、知立市、みよし市、幸田町、愛知県

<おもな活動>

- ・在来種の苗木育成・植樹プロジェクト
- ・ピオトープ等整備事業(工場内、周辺)
- ・外来種駆除事業
- ・普及啓発事業(シンポジウム・ワークショップ)

まちと山をつなぐ
自然を守り、育て、
「うらやま」の

North Owari

瀬戸市、春日井市、犬山市、小牧市

まちのすぐそばの森「うらやま」の自然価値を高めるためには、人の手を入れる必要があります。この森は濃尾平野の上流に位置し、下流部の洪水を防ぐなど、人々の暮らしを守っています。尾張北部生態系ネットワーク協議会は、もう一度自分たちの自然がまちのすぐ裏にあることに気付いてもらうため「うらやま」の活動に取り組んでいます。

協議会テーマ
「うらやま」の豊かな自然を再発見しよう



「犬山山学センター」環境学習場（池）の風景

「うらやま」はまちと山のつなぎ目の役割体験や広報で住民の関与を高める

湿地が多く東海丘陵要素植物群が分布するこの地域は、希少な生きものが見られる生物多様性の高いエリア。市街地が近い「うらやま」は、近年、開発圧力が低下していますが、人の関わりが薄くなって適正な管理が及ばず、森では日照不足で、草地では外来種の影響で、人知れず絶滅の危機に瀕する種も。

そこで、「眺めることから、関わる自然へ」の転換をキャッチフレーズに、「うらやま」へ関心を持ち、生物を守る意義を理解し、守る活動に関わっていただくことを目指して、市民参加型の取組を展開。犬山山学研究所理事長の林進会長は「今後は、食やふるさとのものづくり、遊びなどでさらに多くの方に意識を向けてもらい、活動を通して守り続けていきたいです」と語ります。



「環境学習」の様子

研究と環境学習を織り交ぜ、地域住民にアピール

このエリアには、湧水地、ため池、その下流に独特の水田生態系がありますが、ブルーギルやオオクチバスなどにより、二枚貝やカワバタモロコなどの在来種が駆逐されています。その対策として同協議会は定期的に池干しをして、増えすぎた外来種を駆除しています。一度棲みついた外来種の完全駆除はできませんが、外来種の密度を適正に管理することにより、在来種との共存を図ることは可能です。池干しには、有志を募集し、市民参加型の環境教育の場として活用して地域住民にアピールしています。それと同時に、協議会構成員のみならず、他団体からの参加も受け入れ、ノウハウの共有化を図っています。実施結果は研究報告に取りまとめ、行政と成果を共有しています。



ホトケドジョウ

マメナシ

ギフチョウ(♀)

ヒメタイコウチ

ヒトツバタゴ



犬山山学センターでの「展示活動」の様子

教えるより体験を大切に。活動を通して人を育て続けていく

活動継続には人材育成が、活動拡大には新たな仲間が必要。この課題に対し林会長は「年齢が活動を制限するとは思いません。社会的現役世代の若手人材の確保は困難でも、シニア世代の人材が豊富なのはエイジフリーの活動成果。また親子参加の活動により、ジェンダーフリーと世代間伝達の人材育成の成果を獲得していると考えています」と語ります。

さらに「他の協議会と経験を共有・伝達し合うため、地域留学のように他地域の経験を持ち帰る仕組みがあってもいいですね」(林会長)と相互体験による人材交流を重視。人気の昆虫教室でも、捕まえた生きものを図鑑で調べ、標本にまでする実物学習の効果は大きく、子どもたちは内発的に興味・関心を持ち、一生懸命に取り組むそうです。

地域の生態系

ギフチョウ、カワバタモロコ、ホトケドジョウ、ヒメタイコウチ、マメナシ、シデコブシ、ヒトツバタゴ



「昆虫教室」の様子



善師野での植樹の様子

<おもな活動>

- ・教育機関、公共施設におけるピオトープの創出
- ・地域住民の協力によるニュータウン内の樹木構成の改善
- ・里山林の再生と活用、新しい森林産業の育成
- ・竹林の管理と竹材の利用開発
- ・耕作放棄水田をなくし、農村風景を取り戻す
- ・種の保全を図る里山バンキングとミチゲーション



「ため池を結ぶピオトープ」回廊整備の様子

【構成団体一覧】18団体

<大学等 2>

学校法人 中部大学、名古屋経済大学・短期大学部

<企業等 3>

エスベックミック株式会社、中日本高速道路株式会社、徳倉建設株式会社

<NPO、各種団体等 8>

NPO法人 犬山山学研究所、NPO法人 海上の森の会、NPO法人 グラウンドワーク東海、公益財団法人 日本モンキーセンター、パブリックワークス 犬山市アメニティ協会、ふるさとの自然を愛するスズサイコの会、みろく山麓の自然を守る会、リリオの会・子どもフォーラム

<行政機関 5>

瀬戸市、春日井市、犬山市、小牧市、愛知県

新城設楽

生態系
ネットワーク
協議会

豊かな自然に恵まれて
森・生きもの・人が
ともに調和して生きる



スギ、ヒノキの人工林

森のちからと人の営みの調和を目指して

新城設楽エリアは豊かな森林資源に恵まれていますが、その約8割がスギやヒノキの人工林であり、林業の低迷により管理の遅れているところもあります。花祭りなどの独自の文化が根付く地域である一方で、特に山間地域で人口減少や少子高齢化が進んでいます。

「さまざまな課題を抱えつつも、豊かな森林資源を生かして地域を活性化したいと考えています。植樹やフォーラムの開催、森林関係等各種イベントへの参加、木の駅プロジェクト[※]を利用した間伐材活用など活動の幅を広げています」(功刀由紀子会長＝愛知大学名誉教授)。
[※]森林整備と地域経済の活性化を目的とした事業。山で放りっぱなしになっている木(林地残材)を「木の駅」に出荷し、町が元気になる仕組み。全国で展開されている。

Shinshiro Shitara

新城市、設楽町、東栄町、豊根村

新城設楽生態系ネットワーク協議会は「樹を活かす、地域を活かす、森のちからと人の営みが調和する奥三河」をテーマに2013年(平成25年)10月に設立。21団体(2021年(令和3年)4月現在)が、豊かな森林資源を生かして活動しています。林業の衰退や人口減少など課題があるなかで、地域活性化に向けて“市民をつなぐ”活動を展開しています。

協議会テーマ
樹を活かす、地域を活かす、
森のちからと人の営みが
調和する奥三河



「木置」として行う積み木イベント

樹に触れて楽しみながら生物多様性を学ぶ

「植樹では、間伐[※]を行った後の土地に広葉樹を植えています。戦後に国策でスギなどの針葉樹が植えられ、花や木の実を食べられなくなった生きものが畑に現れて獣害[※]が発生するようになりました。花や木の実のなる広葉樹を植えることで、生きものと共存したい。でも木が育つには長い年月がかかります」(同)。

同協議会が木育として行っている間伐材の積み木のイベントでは、子どもたちは積み木で遊びながら環境の大切さを学んでいます。大人もヒノキなどの香りに癒されるそうです。
[※]間伐：健全な森にするために、一部の弱った木を引きぬくこと。間伐することで木と木の間太陽の光を入れたり、下草を増やしたりして動物が住むことができるようになる。
[※]獣害：イノシシやシカ、クマ、サルなどの野生動物による農作物・樹木などへの被害



学生の視点で生きる「自然観察ガイドマップ」

若者や他の協議会とのネットワークも広げるために

同協議会はメンバーの高齢化が進みつつあり、いかに若者に参加してもらうかが課題です。「最近の大学生は環境に関する知識を持っているので、ぜひ興味を持ったことに取り組んでほしいですね」(同)。同協議会と愛知大学の学生が作成した奥三河の自然観察ガイドマップ「新城・設楽 自然の世界に出かけよう!」では、学生ならではの視点で奥三河の生きものや自然がいきいきと紹介されています。今後、多くの若者に奥三河の自然を知ってもらうため、このガイドマップ掲載地をネット動画で配信できるように進めています。「そして、他の協議会とも交流し、データベースで県内の情報を共有することも必要ではないでしょうか」(同)。



植樹の様子

【構成団体一覧】21団体

- <大学 1>
愛知大学
- <企業等 6>
ガステックサービス株式会社(サーラグループ)、株式会社システムハウスR&C、中日本高速道路株式会社、横浜ゴム株式会社、合同会社新城キッコリーズ、株式会社クライム
- <NPO等 9>
NPO法人 てへ、NPO法人 東三河自然観察会、NPO法人 穂の国森林探偵事務所、NPO法人 穂の国森づくりの会、NPO法人 森づくりフォーラム、一般社団法人奥三河ビジョンフォーラム、奥三河自然保護研究会、あいちエコヤギネットワーク、奥三河の自然と歴史にふれあう会
- <行政機関 5>
新城市、設楽町、東栄町、豊根村、愛知県

<おもな活動>

- ・県民参加型の植樹バスター
- ・新城設楽生態系ネットワーク形成フォーラム
- ・普及啓発イベントへの出席
- ・間伐材を活用した積み木の貸し出し事業

地域の生態系

森林、
コノハズク



フォーラム



花祭り

穂の国の豊かな生きものとおとなを次世代につなぐ



生物多様性モニタリング調査

自然の手入れだけでなく、自然をつくることも大切

東三河エリアはムササビが生息する里山があり、三河湾には渡り鳥の大切な中継地である汐川干潟などがあります。三河湾の竹島には自然林が残り、表浜海岸ではアカウミガメが上陸・産卵します。梶野保光会長（NPO法人東三河自然観察会）は、次のように語っています。「自然に任せてはだめで、人の手が入らなければ生態系は保てません。また保全だけでなく、ビオトープなどの自然の創出も大切です。愛知大学など学校や園庭にビオトープをつくっているのもこのエリアの特徴です」。

豊橋市、豊川市、蒲都市

東三河生態系ネットワーク協議会は、2014年（平成26年）2月17日に「穂の国いきものがたり、子どもたちへ水と緑でつなげよう」をテーマに設立され、本格的なフォーラムや自然観察バスツアーなどを積極的に企画・開催しています。自然の保全・創出を通じて生きものをつなげるだけでなく、人や次世代へのつながりも大切に育んでいます。

協議会テーマ
穂の国いきものがたり
子どもたちへ
水と緑でつなげよう



自然観察バスツアー（水質調査）

親子ともに楽しく学べるフォーラムやツアーを企画

同協議会は31団体が所属（2021年（令和3年）9月現在）。年に1回、市民を対象に「東三河生態系ネットワークフォーラム」を開催しています。毎回、要旨集まで発行しており、熱心に取り組んでいます。2016年（平成28年）のフォーラムでは一般市民約200人が集い、生物多様性保全や生態系ネットワーク形成の必要性について学び、地元の高校生や大学生、NPO法人が普段の活動について語りました。同フォーラムのほかにも、親子向けの自然観察バスツアーを開催しています。ツアーの参加者は、豊川の水質調査などを体験し、身近な自然から生きものつながりについて楽しく学んでいます。

East Mikawa



地域の生態系
【海】スナメリ、アカウミガメ
【川・池】ヨシ、トンボ
【森】シイ・カシ林、アオバスク



汐川干潟



水辺のいきもの調査（NPO）朝倉川青水フォーラム



公開フォーラム（基調講演）

人と人とのつながり、次世代へのつながりを広げたい

「渡り鳥の保全のための干潟や浅場（※1）の再生、河畔林（※2）の保全・再生による山と海をつなぐ活動など、今後も参加団体と連携して生物多様性保全に取り組んでいきます。また、東三河は母なる川、豊川の恩恵を隣接の新城設楽や渥美半島と享受しているので、今後も連携していきたいと思います。」（梶野会長）

東三河地域には【ほの国自然ソムリエ学校】のようなリーダー育成の場や、地元の大学との交流機会が多くあります。子供たちがやがて活動のリーダーになり、次の世代に水や緑をつないでいく。穂の国の子どもの成長に今後注目が集まりそうです。

※1）浅場：岸の近くや川の瀬などで、水深の浅い場所。

※2）河畔林：河川の周辺に繁茂する森林のこと。



ほの国自然ソムリエ学校（ふるさと公園）で竹林間伐体験

【構成団体一覧】31団体

- <大学等 5>
学校法人愛知大学、国立大学法人豊橋技術科学大学、学校法人電波学園 愛知工科大学、豊川市施設管理協会（赤塚山公園ぎょぎょランド）、一般社団法人竹島社中（蒲都市竹島水族館）
- <企業等 12>
イノチオホールディングス株式会社、株式会社サーラ コーポレーション、総合ポートサービス株式会社、大成建設株式会社名古屋支店三河営業所、デジタルバンクジャパン株式会社、豊橋信用金庫、豊橋埠頭株式会社、株式会社ラグナマリーナ、東三河懇話会、公益社団法人豊橋青年会議所、一般社団法人豊川青年会議所、一般社団法人蒲郡青年会議所
- <NPO等 9>
NPO法人朝倉川青水フォーラム、NPO法人東三河自然観察会、NPO法人穂の国森づくりの会、NPO法人佐奈川の会、530運動環境協議会、さがらの森もりクラブ、とよかわ里山の会、ほの国自然ソムリエの会、国際ロータリー第2760地区社会奉仕委員会
- <行政機関 5>
国土交通省中部地方整備局豊橋河川事務所、愛知県、豊橋市、豊川市、蒲都市

- <おもな活動>
- ・里山に侵入する「モウソウチク」の除伐と竹林の健全化活動
 - ・葦毛湿原などの湿原保全活動
 - ・公開フォーラム
 - ・環境学習ツアー
 - ・参加団体活動見学会

渥美半島

生態系
ネットワーク
協議会

豊かな自然を
フルに生かして
地域の発展へ

協議会テーマ

海と大地の恵みを活かし、
人と自然を未来につなぐ
渥美半島の創造



渥美半島の自然（田原市提供）

自然の保全はもちろん、
地域の発展のために適切に利用する

海あり山ありの豊かな自然に囲まれた渥美半島。広大な干潟をはじめとして、シギ・チドリ類などの渡り鳥の中継地、アカウミガメの産卵の上陸・産卵地でもあります。また、渥美半島の先端部では「自然の再生」をテーマに、この地域固有の海浜性の植生を復元する公園「いらごさらパーク」が整備されています。後藤尚弘会長（東洋大学教授・AKJ環境総合研究所理事）は次のように語っています。「自然の恵みを生かした農業や水産業も盛んであり、地域資源の保全や適切な利用は渥美半島の発展に欠かせません。協議会としても、生きものの生息環境を保全・再生するだけでなく、自然の恵みを観光産業などにフルに生かしたいと思っています」。

Atsumi Peninsula

田原市、豊橋市

渥美半島生態系ネットワーク協議会は「海と大地の恵みを活かし、人と自然を未来につなぐ渥美半島の創造」をテーマに2015年(平成27年)1月に設立。多くのNPOや事業者などが参加し、35団体(2022年(令和4年)1月現在)が活動しています。豊かな自然の恵みを保全・再生するとともに、積極的に利用していく姿勢が特徴的です。



ハギクソウ



アサリ



オオタカ



アカウミガメ



伊良湖岬自然学習バスツアー

専門家が丁寧に教えるエコツアーや
自然学習会が魅力

同協議会は、一般市民を対象にしたエコツアーや自然学習会を企画・開催しています。2020年(令和2年)10月に開催したエコツアーでは、伊良湖岬の鳥類や蝶類等について、NPOの専門家が現地ですら丁寧に紹介し、20人ほどの参加者は、渥美半島の動植物の豊かさを改めて感じたそうです。

また、2020年(令和2年)12月に開催したフォーラムには一般市民35人が参加しました。瀧崎吉伸先生による渥美半島の植物についての講演や、団体による活動報告、協議会の方向性についての意見交換など、フォーラムは盛況に終わりました。



「環境ボランティアサークル亀の子隊」のタッチングフェイル

幅広い年代や他の協議会と
つながりを広げていきたい

協議会の取組を長く続けていくために、地元の方々世代の人たちに生物多様性保全に関心を持ってもらいたいそうです。渥美半島には「亀の子隊」など若者向けの活動もあるので、期待が持てます。また、同協議会にはNPOが多く、NPO同士、NPOと行政がお互いに理解し、尊重し、連携することが活動の継続のポイントだそうです。他の協議会との連携はまだこれからですが、近隣の協議会とは設立の際に協働しているので連絡がスムーズで、他の協議会のフォーラムに参加しています。

地域の生態系

海浜植物（クロマツ、
ハマボウフウなど）、
アカウミガメ、ゲンジボタル、
タカ、シデコブシ、
カスミサンショウウオ



キャベツ畑



いらごさらパーク

<おもな活動>

- ・地域の自然を題材とした環境学習の会の提供
- ・表浜海岸における生物保全対策の推進
- ・三河湾での干潟、浅場、藻場の保全と再生
- ・農地での生物多様性保全の推進
- ・花咲く砂丘の丘
- ・岸森や防潮・防風林の保全・再生
- ・あつみ産食材を用いた食の提供

【構成団体一覧】35団体

- <大学等 3>
愛知大学、東洋大学、愛知県立福江高等学校
- <企業等 9>
休暇村伊良湖、株式会社JERA 渥美火力発電所、住友林業緑化株式会社、トヨタ自動車株式会社田原工場、渥美商工会、渥美半島観光ビューロー、田原市商工会、一般社団法人田原青年会議所、田原臨海企業懇話会
- <NPO等 19>
あかばね塾、渥美半島の里海を美しくする会、NPO法人渥美半島ハイキングクラブ、NPO法人表浜ネットワーク、環境ボランティアサークル亀の子隊、汐川干潟を守る会、せせらぎの会、CAEA 渥美半島環境活動協議会、田原区、たはら里山の会、田原市小中学校長会、田原市地域コミュニティ連合会、地域自給 SATOYAMA、日本スバルティナ防除ネットワーク、NPO法人東三河自然観察会、東三河野鳥同好会、三河生物同好会、免々田川を守る会、NPO法人ゆずりは学園渥美半島の里海を美しくする会
- <農林漁業団体 1>
愛知みなみ農業協同組合
- <行政機関 3>
田原市、豊橋市、愛知県

西三河南部

生態系ネットワーク協議会

広い視野から
生きものや自然を
とらえ活動をつなぐ

South West Mikawa

碧南市、西尾市、高浜市

西三河南部生態系ネットワーク協議会は、2016年(平成28年)2月に設立されました。27団体(2021年(令和3年)4月現在)で、干潟の保全・再生をはじめとして地域の生きものの生息環境の維持などを目的に、生きもの調査や外来種駆除、ビオトープの創出などの活動に取り組んでいます。

協議会テーマ
きらきら光る^{あお}碧い海
～西三河沿岸が育む
生きものたちのつながり～



地域の生態系
干潟、ハマシギ、
セイタカシギ、ゲンジボタル、
ヘイケボタル、
ニホンイシガメ



油ヶ淵 (碧南市)



愛知こどもの国 (西尾市)



一色干潟



干潟観察会



生きものふれあい観察会



外来種駆除活動

干潟や川を中心に自然や生きもの・人をつなぐ

このエリアは広大な^{いっしょ}一色干潟をはじめ良質な干潟が数多く分布し、底生動物が豊かで、シギ・チドリ類の中継地になっています。また、県内唯一の天然湖沼で、海水と淡水が混じり合った汽水湖である油ヶ淵もあります。

こうした干潟や川等を中心に、西三河南部地域の多様な自然をフィールドとして、企業やNPO、大学、行政等の多様な所属団体が連携し、生きものや人のネットワークをつなぐ活動を展開しています。

地域活性化や、子どもの学び等につながる自然体験イベントを

例年、西尾市の一色干潟にて開催する「干潟の生きもの観察会」では、干潟に住む生物の多様性や干潟の機能等について、一般の参加者が楽しみながら学べる機会を提供しています。

西尾市東幡豆町にある愛知こどもの国は、広大な敷地と豊かな自然を備えた児童総合遊園施設です。愛知こどもの国をフィールドとして、カメや昆虫等の観察会などを行っています。

地域の自然や生物多様性が、将来を担う子ども世代の自然体験や環境学習、ひいては地域の魅力創出につながるような活動を企画・開催しています。

生きもの・自然をテーマに取組をつなぐ

同協議会では、地域の企業・NPO・大学・行政といった多様な主体が連携して活動を展開しており、更に近年では大学生等のユース世代が活動に参加する等、多様な世代の連携もみられます。近年広まっている国連持続可能な開発目標(SDGs)においても、こうしたパートナーシップが重要になります。

地域の自然や生きものを保全し、生態系のネットワークや活動をつなげ、未来に渡すことを目指して、活動を展開していきます。

【構成団体一覧】27団体

<大学等 3>

人間環境大学、愛知学泉大学、西尾市立室場小学校

<企業等 10>

(株)あいや、(株)エムアイシーグループ、(株)オティックス、(株)おとうふ工房いしかわ、山旺建設(株)、七福醸造(株)、トヨタ自動車(株)、(株)豊田自動織機、日鉄ステンレス(株)衣浦製造所、日東醸造(株)

<NPO等 6>

(NPO)愛知生物調査会、(NPO)フロンティア西尾、西三河自然観察会、西三河野鳥の会、へきなん市民環境会議、渡し場かもめ会

<農林漁業団体 4>

あいち中央農業協同組合、東幡豆漁業協同組合、西三河漁業協同組合、衣崎漁業協同組合

<行政機関 4>

碧南市、西尾市、高浜市、愛知県

<おもな活動>

- ・生きもの調査
- ・自然体験学習活動
- ・外来種駆除活動
- ・フォーラム等による普及啓発

尾張西部

生態系ネットワーク協議会

未来へつなげる
自然の共生の歴史を
築いてきた人と

West Owari

名古屋市、一宮市、津島市、
江南市、稲沢市、岩倉市、愛西市、
清須市、北名古屋市、弥富市、
あま市、豊山町、大口町、扶桑町、
大治町、蟹江町、飛島村

2016年(平成28年)11月22日、尾張西部生態系ネットワーク協議会が設立、同協議会では、会員47団体(2021年(令和3年)6月末時点)で「サギやケリの舞う生命豊かな尾張平野をめざして」をテーマに、県西部の木曾川・庄内川中下流域に発達する濃尾平野の肥沃な土壌の上で、さまざまな活動を展開してきました。

協議会テーマ
サギやケリの舞う
いのち
生命豊かな
尾張平野をめざして



島畑の景観



五条川



岩倉市自然生態園



チユウサギ

県内有数の水田地帯など、貴重な地域における活動

尾張西部地区は木曾川、日光川、庄内川をはじめ、多くの河川や農業水路が流れ、水田などの田園風景が広がっています。県内有数の水田地帯であり、大型台風や氾濫などの被害の歴史を乗り越えてきました。水田の中に設けられた畑地で世界的にも珍しい「島畑」を見られるのも、この地域ならではの特徴です。これまでに、会員メンバーの工場敷地内に設けられたビオトープでの生きもの観察会、河川の上における植栽イベント、弥富野鳥園での鳥と生きもの・ふれあい学習会を開催しました。

陸だけでなく海自然环境も魅力の一つ

水田の内部に鳥状に畑地が残る「島畑」は、灌漑・田圃整備や機械化の進行に伴い減少しましたが、伝統的な景観として生態系の保全に極めて貴重な場所です。木曾川には国内に数か所しかない「河畔砂丘」があり、固有の生物が生育しています。伊勢湾臨海部を中心に工業地帯が形成されたエリアでは、河口部の埋め立てが進みましたが、残された干潟や河口のヨシ原には、多数の渡り鳥が飛来し餌場や繁殖地として、水鳥や貝類などの貴重な生息区域になっています。

今後に向けて

新型コロナウイルス感染症拡大にともない、大規模な活動を自粛していましたが、協議会メンバー間での連携や情報共有をはかりながら、地味ながらもアクションを起こせるように、メンバーによる個々での活動を続けています。今後、ネットワーク形成交付金を活用してのビオトープづくりや、自然観察会やバスツアー、さらにはメンバー間での取組を発表する場としてのフォーラムの開催など、様々な生物多様性保全活動を取り組めるように努めていきます。

【構成団体一覧】47団体

<大学等 3>
大同大学、愛知県立佐屋高等学校、学校法人長沢学園
木田幼稚園
<企業等 11>
(公財)愛知公園協会、(株)イチテック、エスベックミック(株)、A & A 下水道科学館、(株)加藤建設、豊田合成(株)、宮田用土土地改良区、(株)山田組、(株)日建コンサルテイング、あまロータリークラブ、ソニーグローバルマニュファクチャリング&オペレーションズ(株)稲沢サイト
<NPO等 15>
(NPO)祖父江のホタルを守る会、(NPO)トンボと水辺環境研究所、(NPO)れんこん村のわくわくネットワーク、愛知県下水道科学館ビオトープの会「ビオピース」、海部地域・淡水魚水族館、一宮平成ホテルの会、尾張自然観察会、名古屋水辺研究会、日本野鳥の会 愛知県支部、びおこの会、ビオトープ・ネットワーク中部、萬葉公園ほたる会、Longhill Net、T・海部野川、(NPO)愛知環境カウンセラー協会
<行政機関 18>
名古屋市、一宮市、津島市、江南市、稲沢市、岩倉市、愛西市、清須市、北名古屋市、弥富市、あま市、豊山町、大口町、扶桑町、大治町、蟹江町、飛島村、愛知県

地域の生態系

ナゴヤダルマガエル、
サギ、ケリなど



ハス田

<おもな活動>

- ・水田生態系の保全・再生
- ・河川生態系の保全・再生
- ・都市生態系の創出・改良
- ・希少種の保護
- ・侵略的外来種の防除

「あいちの生物多様性モニタリング」

本県では、2010年のCOP10（生物多様性条約第10回締約国会議）を契機に、土地利用の転換・開発などにより、分断・孤立した生きものの生息生育空間を緑地などでつないで、豊かな生物多様性を回復させる取組として、「生態系ネットワーク形成」を推進してまいりました。

2010年から県内各地において様々な団体による生物多様性保全活動が行われるようになってきましたが、県内の豊かな自然を守り、後世に伝えていくためには、今後も様々な保全活動を継続し、さらに活性化していくことが重要となります。

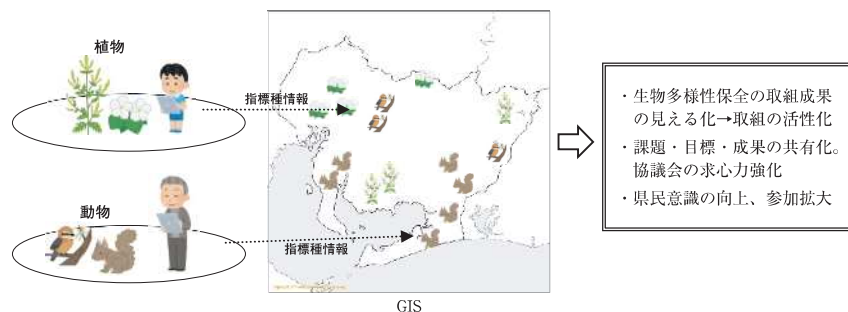
保全活動の継続・発展に資するため、本県では、各団体の皆様がそれぞれの活動場所等で「生きもの」を保全・観察・調査した結果を投稿できるウェブサイト「指標種チェッカーVer.2」を構築し、「生きもの」の生息・生育状況を共有できるシステムを活用しています。

皆様の日頃の活動（保全活動、観察会、調査等）の際に、「指標種チェッカーVer.2」へ投稿をお願い致します。

投稿されたデータは、皆様の活動成果の確認や今後の活動内容の検討等にご活用いただけるほか、県内の生物多様性の現状が記録として残り、将来的に貴重な資料となります。

ウェブサイトを利用した調査の流れや、サイトのアドレス等、詳細は右ページをご覧ください。

【調査のイメージ】



【お問い合わせ先】

愛知県環境局環境政策部自然環境課（国際連携・生態系グループ）
E-mail : shizen@pref.aichi.lg.jp
TEL : 052-954-6229または6475
FAX : 052-963-3526

見つけた動植物の登録の仕方

【自分で登録してみよう！】

1. 観察会などで、いろんな動物や植物を見つけましょう。



見つけた動植物の写真か動画を撮り、名前をメモしておく。
見つけた日にちと場所をメモしておく。

2. スマートフォンやパソコンで以下のサイトにアクセスします。

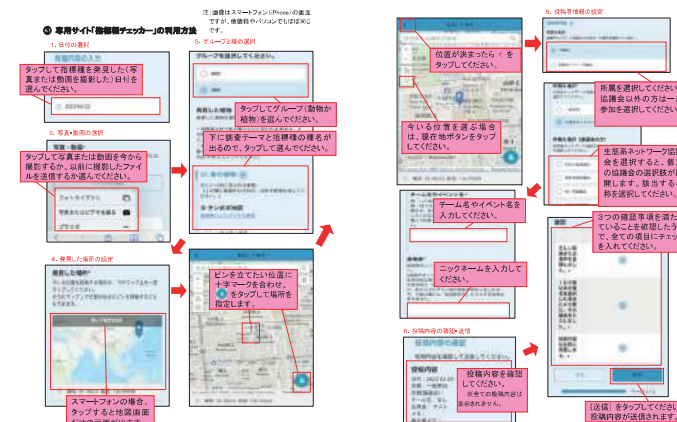


「指標種チェッカー Ver.2」
<https://arcgis/SqWWC>

スマートフォンからはQRコードが便利です。
左のような登録画面が立ち上がります。



3. 必要事項を登録します。



4. 結果が「生物多様性モニタリングマップ」に反映されます。



県が「モニタリングハンドブック」で選定した指標種の中で、希少種に該当する種については、モニタリングマップ上では非表示、「希少種等メッシュマップ」上では、5 kmのエリア表示となります。
それ以外の「貴重な種名メモ」に入力していただいた種については、モニタリングマップ上には表示されず、「希少種等メッシュマップ」上で簡易表示されます。

地図上の点をクリックする登録情報を確認できます。

<参考> あいちの生物多様性モニタリングハンドブック

<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/shizen/mon-book.html>



知多半島生態系 ネットワーク協議会
東部丘陵生態系 ネットワーク協議会
西三河生態系 ネットワーク協議会
尾張北部生態系 ネットワーク協議会
新城設楽生態系 ネットワーク協議会
東三河生態系 ネットワーク協議会
渥美半島生態系 ネットワーク協議会
西三河南部生態系 ネットワーク協議会
尾張西部生態系 ネットワーク協議会



ミックス
紙 | 責任ある森林
管理を支えています
FSC® C011530